

(Ⅱ) 各研修の概要

◆令和2年度「学校を核とした地域力強化プラン」研修会(地域学校協働活動推進事業研修会)

- 1. 目的** 新学習指導要領が本年度から順次完全実施され、社会に開かれた教育課程により、新しい時代に対応できる学びをより一層進化させる必要があり、将来を担う子どもたちの教育を支えるため、幅広い層の地域住民や企業・団体等の参画により、地域学校協働活動の推進が求められている。

また、コミュニティ・スクール導入の努力義務化により、学校が地域資源として活用され、学校が核となって地域の人々が生き生きと活躍する学びの場を提供できる地域学校協働活動の展開が期待されている。

そのため、地域学校協働活動のさらなる展開やコミュニティ・スクールとの一体的な推進に向けて、事業の中核を担う対象者が今後の方策や地域と学校の在り方についての学びを深める機会とする。

- 2. 主催** 滋賀県教育委員会

- 3. 対象**
- ・「学校を核とした地域力強化プラン」関連事業実施市町担当者
 - ・上記事業の未実施市町における参加希望者 ・公立校園 教職員
 - ・市町生涯学習・社会教育担当者 ・市町学校教育担当者 ・地域学校協働活動の関係者

- 4. 日時** 令和2年7月10日(金) 13:30~16:30

- 5. 日程**
- 行政説明 本年度の事業説明および補助金事務手続きについて
 - 講演 演題:「地域学校協働活動とコミュニティ・スクールとの一体的な推進」をどう考えるか?
講師 天理大学 教授 佐々木 保孝 氏
 - 情報交換・グループワーク

- 6. 場所** 滋賀県庁東館7階大会議室

- 7. 参加者数** 93名

- 8. 概要** 講師より、「地域学校協働活動とコミュニティ・スクールとの一体的な推進」をどう考えるか?』をテーマに講演をいただいた。

前半は「創る」をキーワードに、新学習指導要領に示される「主体的・対話的で深い学び」を実現させるためのカリキュラムマネジメントに焦点を当て、地域学校協働活動の機能的意義や子どもたちの学びを支える仕組みについて説明いただいた。さらに、「一体的推進」の視点から、学校運営協議会と地域学校協働本部の役割と関連性についても触れていただいた。

後半には、学習する組織を目指すための審議体づくりのポイントや、チーム学習の意義、「心理的安全性」を高めるためのリーダーシップなど、具体的な事例とともに組織の運営上大事にしたい考え方や、効果を発揮する仕組み作りについて教示いただいた。



9. 参加者のアンケートより

- 日頃、私達が学校と関わる活動の基本理念を十分に理解する事ができました。今後も学校を支える地域力の一員として、児童達の将来の素晴らしい成長過程を胸に秘めながら共に頑張ってまいります。
- 先生が講義で話されたように、高校では地域が広すぎて小・中のように選定できないが、地域に「何かを期待する」ことより、自分の高校が位置するその地域に学校として「何が貢献できるか」を考えることが高校としてのCSのあり方かもしれません。
- 地域活動やCSは学校の活動の肥料のようなものであるという内容に共感できました。
- 本校は本年度より学校運営協議会を設置し、これからどのような事業を行っていくか検討していきます。先生のお話をうかがい、「地域の一員としての学校の地域貢献活動」を推進していく決意を固めました。
- カリキュラムマネジメントと地域協働の整理ができました。教育課程の内・外の仕分け、内・外のどちらに関わっていくのか、組織・人の関わり方について整理ができました。



◆コミュニティ・スクール推進事業研修会（コミュニティ・スクール推進フォーラム 兼 コミュニティ・スクール連絡協議会）

1 目的 学校と地域が一体となって子どもを育む「地域とともにある学校づくり」の充実方策について、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の有効的な取組に係る講演やトークセッションをとおして、県立学校や市町における円滑かつ効果的な導入や取組の充実に資すること。

2 主催 滋賀県教育委員会

3 対象（主に県立学校関係者対象）

- (1) 県立高等学校教職員、県立特別支援学校教職員
- (2) 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者・学校評議員
- (3) 各市町担当職員

4 日時・会場・参加者数

- 日時：令和2年10月30日（金） 13:30～16:40
- 会場：滋賀県庁東館7階大会議室
- 参加者数：51名

5 日程

□講演

演題：「コミュニティ・スクールを生かした学校づくり」

講師：増渕 広美 氏 文部科学省CSマイスター

前神奈川県立市ヶ尾高等学校長

□パネルディスカッション[コミュニティ・スクール連絡協議会]

テーマ：「県立学校における地域と学校の連携・協働について」

○コーディネーター：増渕 広美 氏

○パネリスト：県立学校CS導入校関係者3名

- ・安藤 清代 氏：草津養護学校 学校運営協議会委員（元 草津養護学校長）
- ・中澤 成行 氏：能登川高等学校長
- ・山田 薫 氏：滋賀県CSアドバイザー（前 伊香高等学校長）

6 概要

- ・県立の高等学校や特別支援学校での取組から学んでいただくために、講師の先生から神奈川県立学校におけるコミュニティ・スクール導入について、また、導入後に取り組んでこられた実践などをお話しいただき、参加者の学びを深めることができた。
- ・滋賀県立学校においてコミュニティ・スクール導入に携わってこられたパネリストの皆様から、導入の経緯やご苦労、成果などについて率直な考え・思いをお伝えいただくことにより、参加者のCS導入に係る多くの疑問・不安に答えていただく機会とすることができた。

7. 参加者のアンケートより

- ・コミュニティ・スクールを導入することで、学校が豊かになると感じられ、希望を感じることができたのはよかった。
- ・パネルディスカッションにより成果がわかり、導入すべきであるなあと思えるようになってきた。学校の課題を解決するための一つの方法としてCSを導入することを今後考えていかなければならないと感じた。
- ・現場の先生方、また主導者として苦労を頂いた校長先生方の話であったので、大変重みがあった。



◆「地域における家庭教育支援基盤構築事業」にかかる研修会

1. 家庭教育支援研修会

- (1) 目的 核家族化、共働き家庭・ひとり親家庭の増加、地域のつながりの希薄化等を背景として、子育ての悩みや不安を抱えた家庭の増加等、家庭教育を行う上での困難な現状が指摘されている。また、様々な課題を抱えつつ、地域から孤立し、自ら相談の場にアクセスすることが困難な家庭など、支援が届きにくい家庭への対応や、児童虐待など子どもをめぐる状況が懸念される中、本県においては地域の実情に応じ、多様な人材による家庭教育支援活動が展開されている。そこで、各地域で家庭教育支援活動に取り組む人材等が集まり、家庭教育支援活動の現状や推進・人材確保方策等について学び、情報交換や情報共有をすることで、県内家庭教育支援活動のさらなる充実を図るために本研修を実施する。
- (2) 主催 滋賀県教育委員会
- (3) 対象 「地域における家庭教育基盤構築事業」担当者・家庭教育支援員・市町子育て支援担当等
- (4) 日時 令和2年9月18日(金) 13:30～16:30
- (5) 会場 滋賀県立男女共同参画センター（G-NETしが） 大ホール
- (6) 参加者数 47名
- (7) 内容 ○事例発表
内 容：訪問型家庭教育支援について～泉大津市の取組～
事例発表者：長谷川 慶泰 氏（大阪府泉大津市教育委員会 指導主事）
○講演
演 題：家庭教育支援に必要なネットワークづくりと家庭教育支援チームの必要性
講 師：新崎 国広 氏（大阪教育大学 教育学部教育協働学科教授）



(8) 参加者のアンケートより

- ・教育と福祉の連携がうまくいかない中、担当者が他部局に足を運んでいくことで、「顔のみえるつながり」ができ、情報の共有や交換がスムーズになっていったとの話を聞き、その通りだと感じた。自身も他部局との連携を進めていきたい。
- ・学校は子どもだけを見ているが、「親や家庭」を見ることも大切。家庭教育支援員はそういう取組ができる人材だと感じた。
- ・複雑な家庭が増えた。コロナの影響で、子どもは葛藤しているのではないかと。家庭教育支援員として、何ができるか、日々考えている。
- ・家庭教育支援員として親と関わる中で子どもが登校できるようになった例がある。ささいな話、世間話が保護者とできる関係ができてきた。家庭教育支援員は教師ではない立場で、子どもに寄り添い、学校にその家庭の背景から示唆を与えることができる。福祉の力で学校の流れが変わる。
- ・学校は忙しく、教頭、教務、各先生方は一日中動き回っておられる。働き方改革の面などからも、家庭教育支援員が果たす役割は大きいと感じるが、活動時間が限られていることもネックだと感じる。学校の様々な課題に家庭教育支援チームが果たす役割は大きい。

2. 家庭教育支援実践交流会

- ・日 時 令和3年1月29日(金) 13:30～16:30
- ・会 場 近江八幡市勤労者福祉センター（アクティ近江八幡） 多目的ホール
- ・参加者数 82名
- ・内 容 ○実践事例発表（彦根市および湖南市の取組）
○ミニパネルディスカッション（彦根市、湖南市の家庭教育支援関係者）
○講演 演題：「今、求められている家庭教育支援とは」
講師：上村 文子氏（滋賀県スクールソーシャルワーク スーパーバイザー）

◆令和2年度「学校を核とした地域力強化プラン事業成果報告会」

- 1. 目的** 各市町における取組事例の発表や講演を通じて、地域学校協働活動のさらなる展開やコミュニティ・スクールとの一体的な推進に向けて、今後の方策や地域と学校の在り方について、ともに学ぶ機会とする。
- 2. 主催** 滋賀県教育委員会
- 3. 対象** (1) 地域学校協働活動関係者
(※ 地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、ボランティア等)
(2) 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者
(3) 各市町「学校を核とした地域力強化プラン」関係者
(4) 公立幼稚園・小・中学校教職員、県立高等学校・特別支援学校教職員
- 4. 日時** 令和3年1月22日（金） 13:30～16:30
→会場での集合研修とオンデマンド配信視聴による研修のどちらかを選択する形で研修を実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から集合研修を中止し、オンデマンド配信視聴による研修実施とした。
【オンデマンド配信期間 令和3年2月3日（水）～3月18日（木）】
- 5. 動画構成**
- 事例発表
「手をつなぎ、心通わす 誘・融（とけ合う）老上」
草津市立老上小学校
 - 県立学校の取組紹介
滋賀県教育委員会事務局生涯学習課
 - 講演
演題：「学校と地域の繋がり方を再考する」
講師：高木 和久 氏
文部科学省CSマイスター、滋賀県CSアドバイザー
びわこ学院大学 非常勤講師
- 6. 概要**

草津市立老上小学校より、「老上ふれあい農業合校」と学校との連携・協働について、また、学校運営協議会での熟議を生かしながら子どもの成長を支えていること、コロナ禍においてもICTを活用して、子どもの学びを深めていることなど、具体例を交えながら発表いただいた。

県立学校の取組紹介では、県内のCSの導入状況や考え方、具体的な取組状況について、県生涯学習課員から説明をした。

講演では、これから学校運営協議会を設置する市町及び学校・地域に向けたお話や、設置されて数年経過して様々な課題を感じるCSのお話等、講演の内容を構成立てて分かりやすくお話いただいた。各地域を訪問した際のエピソードや実践例を交えながら、子どもの主体性を育むことの大切さや行政システムの再構成の必要性等について御教示いただいた。

